

選考委員賞

生き物に、『ありがとう』を

赤坂中学校 山本 桜子

食事の前にさりげなく言う、『いただきます』。今まで、この言葉に込められた意味を考えた事はあるか。『いただきます』とは、自分が生き延びる為に、動物の命を頂くので、その食べ物に対して「ありがとう」と感謝する事である。

近代の人々は、生き物の大切さを理解しようとしないう傾向にある。昔は、自分の育てた豚や牛、家畜を殺す事で、殺す時の辛さとありがたさが間近で実感できた。しかし、現在では、工場で動物を殺し、それをお店に運び、売っている。つまり、スーパーマーケットやコンビニでお金を払えば、すぐ手に入る。だから、大量の生物が殺されている事を全く知らない子供達は『いただきます』の意味を忘れ、食べ物を残す。よって、生物のありがたみが薄れている光景が多い。

アメリカや日本のような先進国では、食べ物を多量に残す事が多い。私がアメリカの学校に通っていた時、ゴミ箱の中を見ると、ランチの残り物で埋まっていた。せつかく生徒達の為に作ったのに、これでは非常にもったいない。日本でも、食糧を七割以上輸入しているのに、その三分の一を捨てている、という記事を見た。いわゆる残飯王国なのだ。一方で、貧しい国々は、例え腐っていても病気になるうとも、食べ物を食べたいと考えている。が、食料が無いので多くの人が死んでいる。そして、飢餓で千五百万人が亡くなっている。このアンバランスさが世界の現状なのだ。

それに対して、動物はどうだろうか。彼等は、必要以上に獲物を捕らない。例を挙げれば、ライオンは自分がお腹が空いた時にしか、獲物を追いかけない。狩りをし過ぎると、獲物が無くなってしまいうので、自分で制限しているのだ。そんなスマートな動物を、人はもっと見習うべきである。

だが、今、人間の身勝手さが多様な問題を引き起こしている。例えば、効率的に牛乳を作る為に、牛に牛を食べさせたのだ。これによって狂牛病が発生する。しかし、人間はその牛を食べて病気にかかってしまった。つまり、人間は食物連鎖で最も上にいる生物だが、一番下の草食動物が欠けると、結局自分達も崩れてしまうのだ。また、野鳥の楽園と言われているガラパゴス諸島では、ゴミ問題が発生している。その為、鳥の住処が無くなったり、ゴミを飲み込ん

で死んでしまった鳥が少なくない。

人間は、自分たちの欲求を満たす為に、自然界のリズムも壊している。生き物を大切にするという事は、自分の命を大切にするという事に繋がる。それは、命の重さを理解できる人の事でもある。人は、生き物の存在に関心を持ち、感謝するべきなのだ。

講評

動植物と人間との共存、共生について深く考えるとともに、命の大切さについてももっと関心を持つべきと訴えており、環境と道德の両方の主張がある。